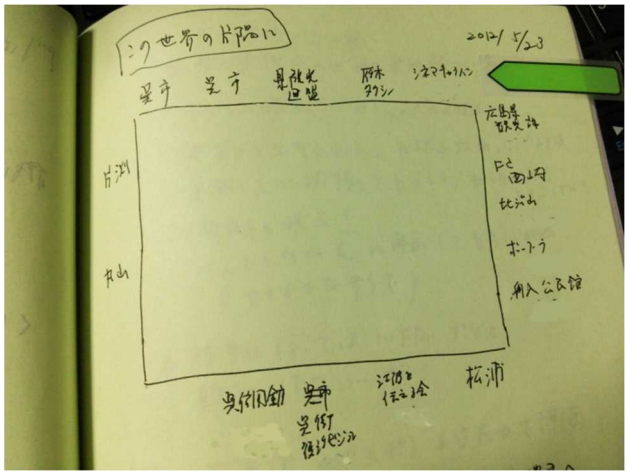
【記録】丸山正雄プロデューサー・片渕須直監督と「この世界の片隅に」応援団との初ミーティング

日時：2012/5/24(木)
会場：広島市内 広島県観光連盟会議室

【参加者】

※1



片渕：

2006 年に TV アニメ放映本数ピーク、2007 年から下降。人材は映画へ。

作り手が観客に訴えかけるところがあってよいのでは？

『マイマイ新子と千年の魔法』は防府市文化財課の協力多大。
『この世界の片隅に』（原作漫画）も推薦された。これが出逢いである旨。

昭和 8 年～22 年の時代のそれぞれのリアリティ。
モンペはいつから？ などなど…
広島駅の写真が昭和 18 年増築～昭和 20 年頃が無い。
☆空想をできるだけ排除して描こうと思う。

丸山：

広島は『はだしのゲン』（アニメ版）からの縁。
監督は資料魔。資料館を作りたいくらい。

“下からの映画”観る人のための映画。
震災から立ち上がる。たまたま広島、たまたま呉。※2
年配の人に納得してもらえる、知らない人にも喜ばれるように。
“俺たちの映画”1 人でも多くの人に、さまざまな形で参加してもらえる映画。

☆映画（創作）には勝手に作ってはいけない部分と勝手に作っていい部分がある。

片渕：

現状、映画は何画面（映画館スクリーン数）あけたかで評価される。
少ない画面で始めてもよい。シネコンのシステムに乗せない。
限られた映画館で長く上映する。長く引っ張る。
映画を観た人の気持ちの終着点としての現地。
気持ちの良い体験を伴う創作にしたい。

検討事項：

・スポンサー、ファイナンス
・パイロットフィルム
・作っていることを多くの人に伝える手段

【脚注】

※1　メモでは日付が 5/23 になっているが、広島フィルム・コミッションからの連絡メールによると 5/24 のはず。
※2　前年の東日本大震災を受けて。たまたまの意味は、片渕監督が持ってきた企画が広島・呉であったということ。

この資料は、NPO 法人広島アニメーションシティ理事であり、「この世界の片隅に」を支援する呉・広島の会 世話人の松浦が、2012 年 5 月 24 日のミーティングに参加した際のメモをまとめたものです。
私が聞いてメモした範囲ですので、内容は途切れ途切れでありこれが全てでなく、また私の理解で書き記しているため、丸山さんや片渕監督の本意とは違うものになっている可能性もあるかもしれません。
それを前提として、短いながら、ここで丸山さんと片渕監督が語られたことが今に到るまでずっとブレてないことを伝えるため、資料として提供するものです。